

令和6年度シラバス

言語聴覚士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
音響学 I (音響学基礎・聴覚心理学)		講義	阪口 明弘	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
言語聴覚士を目指す上で最低限必要な音響学の知識を、音の発生から伝達・聴取まで幅広く学ぶ。音に関する物理面だけでなく、聴覚・音声などの生理面、また楽器や音楽、騒音や建築音響など、生活や社会とのかかわりについても学習する。				
授業の到達目標				
音声の音の性質を理解し、応用できる。 波形と周波数スペクトルの関係を理解する。 音についての知識、感性を修得する。				
授業計画				
回	内容			
1	[音波の性質] 波の基本的性質、定常波と共鳴			
2	倍音と音階、うなり			
3	ドップラー効果、回折、反射と屈折			
4	[音の強さの尺度] 音圧と音の強さ、デシベル			
5	デシベル計算			
6	デシベルの基準値、デシベルに関する補足事項			
7	[音のスペクトル] 純音の式、音の種類、スペクトルの意味と実例			
8	スペクトル分解の原理、短音のスペクトル			
9	サウンドスペクトルグラム、音のデジタル化、電気音響機器			
10	[音響心理学] 音の大きさの知覚、音の高さの知覚			
11	マスキング、両耳聴			
12	建築音響、[音声音響学] 母音の生成の仕組み			
13	母音とフォルマント、鼻音とアンチフォルマント			
14	子音とフォルマント遷移、音素の連続による効果			
15	総合分析、構音障害と音響分析、超音波			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	98%			
レポート・課題	2%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	定期試験とレポートの点数(合計)で60点以上を合格とする。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
言語聴覚士の音響学入門 2訂版	吉田友敬	海文堂出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
言語聴覚士のための音響学	今泉敏	医歯薬出版		
自由記載				
備考				